



救急時の対応

子どもの死因の第一位は、不慮^{ふりよ}の事故です。子どもを持つ家庭では、事故に対する認識を高く持ち、正しい知識を得ることがとても大切です。

誤飲

日本では畳での生活様式があり、様々なものが畳や床の上に置かれています。赤ちゃんは生後5ヶ月を過ぎると手にしたものは何でも口に持って行きます。

タバコ：少量のタバコの誤飲で重篤な症状になるのは稀です。しかし、タバコが浸かっていた液体を飲んだ場合は、溶け出したニコチンがすぐに体に吸収され重篤な中毒症状を示します。

ボタン電池：誤飲したとき、放電の影響によって短時間で食道や胃に潰瘍ができ、穴が開いてしまうなどの重篤な症状を生じることがあり、大変危険です。

タバコを2cm以上、あるいはタバコが浸かった水を飲んだ場合や、ボタン電池を飲み込んでしまった場合は、救急の処置が必要です。すばやい対応をお願いします。

気道異物による窒息

気道に食物などがつまり息ができなくなる、気道異物による窒息は、3歳未満の乳幼児に多く、ピーナッツや玩具（おもちゃの小さい部品など）が原因となることが多く、死に至ることもあります。



1 大切なことは窒息を予防することです。

- ① とにかく子どもの手の届く範囲内に危険なものを置かない。
- ② 口の中に物を入れているときは落ち着いて座って食べさせる。



2 窒息に気がいたら、背部叩打法や、腹部突き上げ法^{はいぶこうだほう}などを行って、異物を除去しますが、反応（意識）がなくなった場合は、119番通報を行い、心肺蘇生^{しんぱいそせい}の手順を開始します。

背部叩打法

下向きになるように手で支えて背中をたたく



腹部突き上げ法（ハイムリック法）

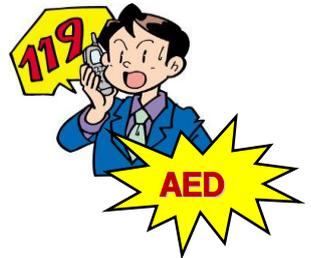
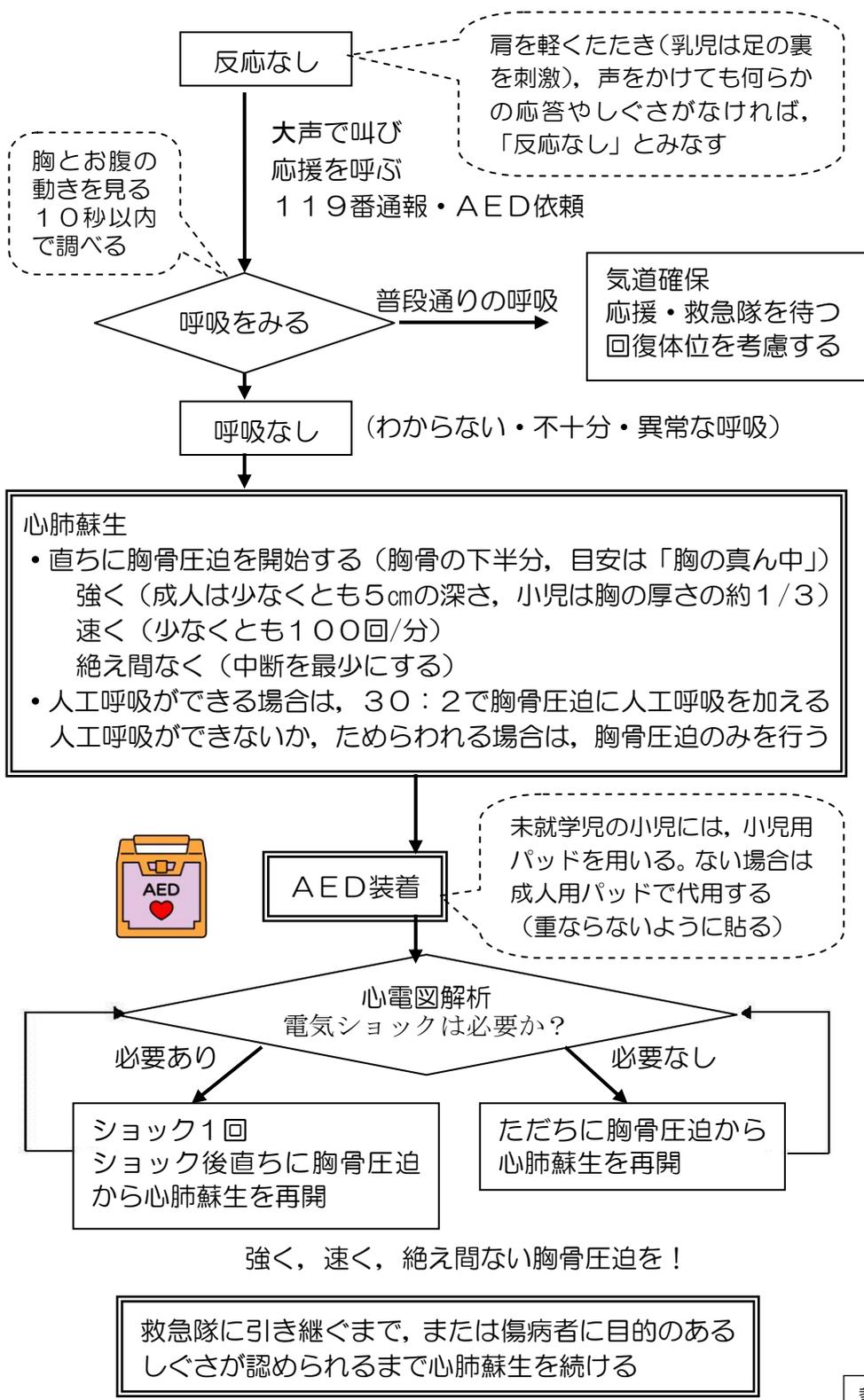
※1歳未満の乳児には行わない



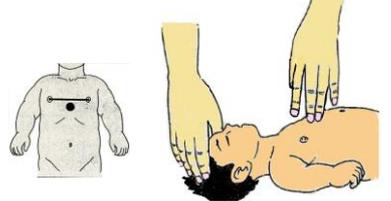
子どもを後ろから抱きかかえ、おへその少し上に親指側を向け、握りこぶしをあてる。あてた握りこぶしを、上から包み込むように、もう一方の手でしっかりと握り、すばやく手前上方に突き上げる。

新しい心肺蘇生法

救急蘇生法の指針が2010年に改訂されました。



※乳児は乳頭線のやや足側を片手の2本指で圧迫



強く! 速く!
絶え間なく!



参照：救急蘇生法の指針(市民用)
救急蘇生法の指針(医療従事者用)

救急車の平均到着時間は7.9分といわれています。心臓が止まってから、1分ごとに救命率は7~10%下がります。その間に私達にできることがあります。覚えましょう! まずは私達の大切な人のために。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>